

第296号

2010年

12月30日

# どついたちニューズ

全損保日勤外勤支部

東京都中央区銀座5-13-7

東銀座東京海上日動ビル1階

電話 03-3542-9857

FAX 03-3542-9858

教宣部 発行

## 長い間、お疲れさまでした 田中健喜さん(神戸分会)退職

神戸分会の田中健喜さんが12月末日をもって退職することになりました。田中さんは、本年6月30日に定年退職を迎え、まごころ社設立と同時にシニア社員として、まごころパートナーズ・北摂支店で勤務されておりました。

昭和48年3月特社入社以来、38年を超える外勤社員生活を田中さんは過ごされました。その知識や経験・実績から発せられる田中さんの言葉は常に説得力があり、多くの後輩たちに影響力を与えました。中でも支部執行副委員長として1998年に行われた支部労働学校で、「労働組合を語るには産業革命に遡る」と言って始められた講演は、田中さんの持つ博識や労働組合に対する情熱がほとぼしる内容で、出席者である若手活動家の共感を大いに呼んでいたのが鮮明に思い出されます。

今後は、原告だった大西さんをはじめ、外勤社員時代の仲間が数多く所属する大阪の「なにわ中央保険サービス」で、引き続き保険募集の仕事をしていきます。田中さんから、退職にあたっての手記が届きましたので、次ページに掲載いたします。

本当に長い間お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

退職にあたって 田中 健喜

平成22年6月30日が契約係社員としての私の定年退職の日でした。翌7月より私たちは「東海日動まごころパートナーズ」出向となり、新しい制度がスタートしました。東京海上日動火災の従業員の身分で休職出向となってはいますが、社員の身分で保険募集を仕事としたい・・・子会社に出向とは言え、私たちの仕事と雇用・生活が確保できた事は本当によかったと思います。

昭和48年3月に特社として入社以来、38年間余りの社員生活であると同時に組合員としての38年間でもありました。ひと言では言い切れない様々な思いや出来事がありました。バブル経済崩壊以後、損保産業は護送船団行政から自由化・規制緩和と急速に進展し、さらにアメリカの圧力のもと生・損の相互乗り入れ、そして、大合併時代へと進んで行きました。行政も事前指導から摘発行政に変わって行きました。ここ数年の業務停止・改善命令を見れば明らかです。

私たちの仕事もその間大きく変わりました。第一義的に「コンプライアンスの遵守」が上げられますが、行政や会社の言う「コンプライアンス」と働く者の「コンプライアンス」の中身が違う事も肝に銘じなければなりません。私が全損保日動外勤支部の組合員になった頃は、日動外勤3000名・大正支部（三井海上）・日火支部・大東京支部・千代田支部・日産支部・日新支部・それに幾つかの外資系支部など組合員丸抱えの支部が幾つもありました。保険産業の大競争時代が始まり、料率の規制緩和・自由化は企業の合併を急速に促進させました。「世界の中で生き残る会社」「グローバル10」を目指す。これが現在のメガ損保産業の進んでいる道ですが、私たちの働き甲斐や生きがいとは異質のものであることは明らかです。

労働組合もその渦中に巻き込まれています。うちへうちへと企業内に組合員の意識を向けさせています。同じ企業に働く「企業内組合」と「全損保」「闘う組合」の組合員意識の違いは、企業経営者にとって労働者を支配する上から放置できません。日本航空の指名解雇撤回闘争もこれからスタートします。全損保のもっとも好いところである産業別横断組織が分裂によってその力はそがれていますが、まだまだ数千人の損保に働く労働者の団結があります。

私は6ヶ月のシニア社員を経て、12月末日に退職を致します。これから代理店として引き続き此の産業で働きますが、「契約者のための商品」を提供し「契約者の立場にたった」視点で仕事をしていきたいと思っています。

定年を契約係社員の身分で迎えることが出来たことが私の財産です。多くの働く人たちに支えられ、私たちの闘いによって獲得した今の身分です。退職後も「気持ちは組合員のまま」でいたいと思います。